世界屋

こおはくし 并二

詞を名とを見

[V. 16]

PL788
.4
.G4
1654
vol. 16
copy 1
Asian
Japan
Case

THE LIBRARY OF CONGRESS

2004551302

源氏八之九月晦石山詣る事

伊与のすけといひしハ、こ院かくれさせ給ひて、又の
とし、ひたちになりてくだりしかバ、かのはゝきゞも
いざなはれにけり。すまの旅ゐもはるかにきゝ
て、人しれずおもひやりきこえぬにしもあらざりし
かど、つたへきこゆべきよすがだになくて、つくばねの
山をふきこす風もうきたる心地して、いさゝかの
つたへだになくて、年月かさなりにけり。かぎ
れることもなかりし旅ゐなれど、京にかへり
すみて、又のとしの秋ぞひたちハのぼりける。関
いる日しも、この殿石山に願はたしにまうで
給ひけり。京よりかれこれむかへしこども。

むかへまきたる人ぐ。この夏(添)くまうで詣べしと
つげれば。こちの(いよの外ん)ほどさはがしうまゐんもれぞと
て。まゐあつかさよりいそぎけるを。女車おほく
所をうゆるぎくるに日たけぬ。うちいでのまゝ夜くる
ほどに。夏(添)はあまた山こえぬとて。れぎんの人ぐこ
ちもさりあへずきたゝえぬれば。きき(れ坂ノ)山にこれ(いよの外ノ者)おり
ぬて。こゝうしこの枝のしたるに。車どもうさおろし。
まがれにゐうしこまりてもぐしなる。くる夜
ちどうへはとくうし。さきにたてちどしたれど。
れるいひろくこゝ。車十ぢうりぞ。袖ぐちものゝ色
あひちどもまり出てそしたる。ぬ中(添ん)びぞよしまて。

秋宮のれんぐり。なまぞやうのおりのもれ。こぐる夜
覚し出ろ。夜もうく世まさんへ出給。先げしくし
さま。かずもなきれ前どもこれめとぐめたり。九月
川ごもりなれば。紅葉の色こうさまぞ。霜がれの草
むらくおりしうこしつたりま。さき山よりさぞと
ちづれ出ろ。猿すがたぞの。色このあをのつきぐ
しきぬひ地。くゝりも深のさ夜もさりかたまおりしう
ふ也。れ車いすぐれおろしまて。かれむしのこ君。
いまは名湯のすけなりをめしよをて。望ふ乃れ
関むかへハえしひとて給りじなどの給。れこうろの
うちいとあたれまおぼし出ることおぼかれど。

都ぞうまてかひなし。女も人しれずむかしのと
ますれねばどり返してまれおもれなり
ゆくとくとをさとめぐるこまるぶをやる
えぬ志水と人はうるらん。えしり給りじうしとね
もふまいとかひなし

白山にこそ御まゐり候へ。宗清のおほせ　平家方の侍と申し人也
まゐらせ給ひし日より、すぎしころまで
よそ目には、いとむつかしうさき
あはれと給ひしかば、かへりみまじく候ひしまで。
このたびくだり給ふを、御なげきのさ
まざま、おもしろ、あはれさへまさりけるにて。
ひとへにぞんじ候ひしを、ずゐぶんこゝろをそへて
さればいかばかりけれども、ついで給はゞ。
世の中のやうにおぼえて、御ことはりのさきへの
うちまはりて、給はりしことゝいひしも今は
かくられ候はんずらんぞ、おぼつかなしとそれ。

右近のぞうとけて此ともにくぐりしなぞ。とりも
つきてなしいで給ふれど。それにぞこれもおもひ
しりてなどてすうしも世にしるがふうろをつゝひ
けんなどせひ出けり。（古傳）しけめしよきて。此（源）きうそこ
あり。今（古傳ハ）はぼし思ぬべきことを。うろなぐくもおハ
すゝれとしねこそ。一日（文ノ詞）もちぐりしられしを。
さはおぼししりけんや
（源）見くらしまゆさあふうぢをこれこしも行かひ
なしやしほなしぬうこ。関（せき）もりのさもうしやましく。
（いふれ外を云ふ）
めぐ面しかりしかれとあり。（源詞）どしぞ此のとぐえも
うぬくしく成にかれど。心にはいれとなく。ぐ今の

心ちすりなしひまなん。すきぐしういとぐまを
まれむやとてぬへれば。かたじけなくてもていき
てなを(討)きてしぬへ。若ほはもうしおぼしのくこと
あらんとしぬふりまおなじやうなれれこころのな
けりしさなん。いとゞありがたきすきひことぞ。よう
なきことゝおもへぐ。えこそすくよりまきてしへ
さひ。女にてハまけ罪しぬへらんまつゑゆりされぬ
べしなどいふ。今(宮ハ)ハましていとゝづしう。よろづの
ことうぬくしき心ちすれど。めづしきまやえ
しれぢれざりけん
(宮)あふさかの関(せき)やいかなりきさなれバしげき歎(なげき)の

なる代りくらん。夢のやうになんとさえしたり。
あれ（添ん）もつらさも見すれぬふしとおぼしをれ
たる人なれば。おりくはなをのこまひうごかしなり。
かしらほどに。このひたち（いよの介なり）のうんおいのけもなりたり
や。なやましうのうして。地ころ（いよの介ん）ぼせかるをれば。
子どもに。たゞこの君（添）のけことをのこいひなさて。
よろげのこと。たゞこの此（添ノ）ころにのこまりをて。けが
ありつる世にかたしで。けうまつれとのこ明られ
いひなり。女（定ん）ぞこころうさすくをみて。この人（いよの介）なり
さへなられて。いかなるさ夜にもぶれまどしぶべき
にかあらんと。せひなげきぬふを（いよの介ん）うりたり。命（いのち）乃

かぎりあり抽なれば、おしことぶむべきかたなし。
いでゝ此人(宣)の所ためにのうしなくむしおも
がれ。ワガ子どものこゝろもしらぬとゝ。うしろめたう
かなしきことにいひおもへど。こゝろにえとゞめぬ
抽にてうきぬ。しぢしこそさの(いよのかゝ)たまひしものを
なぞなさけ(子どもノ)けれど。うたべこそあれ。つきこと
おほかりとあるもかゝるも世のことゝなれば。
身(宣ん)ひとけのうきことにてなげきあしくしす。こゞ
このうち(紀守る)のかゝのこゝぞむかしよりすき心ありて。
すこしなさけがりけり。おもれ(紀守詞)にの給(いよのかゝ)をきしを。
数(ゞず)なしずとも覚しうとまでの給ませよなど。つい

そうしたりて、いとあさましき心のこしかれ（兎ん）ばうさ
すくをあり身まて、かくいさとまりてもてくハ、
めづらしきことゞもをきゝそふかれと、人しれぞ
おもひしりて、人まさるんともしらせでおまる
なりまかりおる人ゞいふかひなしとしひなげく、
（紀寄ん）うこもいとけうを（詞）のれをいとひこまふほどに、
のこりのれよもひハ御ほく抱しぬふらん、いかでゝ
をぐしぬべきなどぞおいなれさうしらやなど
ぞ侍めり

69038
6 AP78.